

PRESS RELEASE

30
years of
collaboration

ギャラリー小柳 展覧会のご案内
杉本博司、ソフィ・カル、青柳龍太
UNSOLD UNSOLD
2024.11.21 (Thu) – 12.14 (Sat)



報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では2024年11月21日（木）から12月14日（土）の会期で、杉本博司、ソフィ・カル、青柳龍太の3人のアーティストによる「UNSOLD UNSOLD」展を開催いたします。本展は、2014年11月にギャラリー小柳で開催した「UNSOLD」展を再現する展示となります。

10年前、3人のアーティストにより蚤の市に出され売れ残った品々は、ギャラリーという場に移されることにより、全体でひとつの「UNSOLD」というインスタレーション作品として売りに出されました。しかし、残念ながらそれもまた売れ残りしました。

今、10年ぶりにそれを「UNSOLD UNSOLD」（売れ残りの売れ残り）として再び販売することにいたしました。果たして今度こそ売れるのでしょうか。それともさらに「UNSOLD UNSOLD UNSOLD」になるのでしょうか...

「UNSOLD」2014年より

奇妙な縁で青柳龍太という若いアーティストと巡り会ったソフィ・カル。そして彼女を介して青柳を知ることとなった杉本博司。2013年3月のある日、この3人は秘密裏に靖国神社の蚤の市に参加しました。

2013年3月17日、午前7時から午後3時まで。ソフィ・カル、青柳龍太、杉本博司は靖国神社の蚤の市に、3つの出店を設けた。

ソフィの陳列は、中古品で構成され、由来書きは無く、「本当の話」のエピソードを書き、それにリンクした物を並べた。10点を108,500円で売り、13点は売れ残った。

杉本の陳列は、本物の古物と彼の作品ひとつで構成され、それぞれに由来書きを付けたが、それはまゆつばの由来ばかり。4点を67,000円で売り、12点は売れ残った。

龍太の陳列は、彼が蚤の市でいつものように扱っている骨董ともインスタレーションとも思えるスタイルで、それにまつわる説明は全く無し。9点を740,000円で売り、10点は売れ残った。

午後になって、グループを引き連れたアメリカ人のガイドが彼らの前を通りがかり言った。「ここは、見る価値はなさそうだ」。

これらは、売れ残りです。

本展に際し、2014年に発行された展覧会カタログを再版し、杉本の新テキストを加えて『UNSOLD UNSOLD』として発行いたします。

GALLERY KOYANAGI

展覧会の初日、11月21日（木）の午後5時から7時まで杉本博司、ソフィ・カル、青柳龍太を迎えてオープニング・レセプションを開催いたします。3人のアーティストが再び集うまたとない機会となります。是非ご来場賜りますようお願い申し上げます。（※初日11月21日は、開廊時間が午後5時からとなります。）

ギャラリー小柳は1995年開廊以来、2025年で30周年を迎えます。本展覧会を皮切りに、30周年を記念し「30years of collaboration」として、ギャラリー小柳のアーティスト達と数年にわたりさまざまな企画をしてまいります。ご期待ください。

ソフィ・カルは本年度の「第35回 高松宮殿下記念世界文化賞」を絵画部門で受賞いたしました。授賞式典は、2024年11月19日（火）に開催されます。

本展に関する図版のご依頼は担当者までご連絡ください。ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【関連情報】

「UNSOLD UNSOLD」会期中はギャラリー小柳のビューイングルームにて、青柳龍太の新シリーズ「SANDPLAY」1点を展示いたします。同シリーズは下記のLAGでも展示しております。

作家名：青柳龍太

展覧会名：SANDPLAY

会期：2024年11月15日（金）－12月7日（土）

会場：LAG (LIVE ART GALLERY)

東京都渋谷区神宮前2丁目4-1 1F

URL：<https://www.live-art-books.jp/lag/>

作家名：ソフィ・カル

展覧会名：再開館記念『不在』－トウルーズ＝ロートレックとソフィ・カル

会期：2024年11月23日（土）－2025年1月26日（日）

会場：三菱一号館美術館

東京都千代田区丸の内2丁目6-2

URL：<https://mimt.jp/>

作家名：杉本博司

展覧会名：ORCHARD PRODUCE オペラ企画「ドン・ジョヴァンニ」

会期：2025年2月20日（木）－2月24日（月・祝）

会場：めぐろパーシモンホール

東京都目黒区八雲1丁目1-1

URL：https://www.bunkamura.co.jp/orchard/lineup/25_dongiovanni/

【広報用図版】

ご使用の際は、下記キャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。
下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

- ・図版のトリミング不可
- ・図版への文字載せ不可
- ・図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。



〔クレジット〕 Courtesy of Gallery Koyanagi

【作家プロフィール】



杉本博司

1948 年、台東区御徒町生まれ。1970 年、美術家を志し渡米。1978 年、名門ソナベント・ギャラリーに属すれど食えず、1980 年骨董屋「みんなげい」を始める。当時日本全国の蚤の市を巡る。1995 年のメトロポリタン美術館個展以後、作品で食えるようになるも長年の習性はぬけず古物を買ひ漁り今に至る。



ソフィ・カル

1953 年、フランス・パリ生まれ。10 代の終わりから 7 年もの間放浪生活を送り、26 歳でパリに戻る。その頃より制作を始め、1980 年より展覧会へ出品。自らの体験をもとに事実とフィクションを織り交ぜ、テキストと写真、映像を組み合わせたインスタレーション作品を制作する。



青柳龍太

1976 年、大阪に生まれる。ラサール高校卒業後、美術家を志し多摩美術大学に進学。2005 年よりコンセプチュアルなインスタレーション作品の発表を開始。2010 年より神楽坂にて骨董、ガラクタ、オブジェを展示、販売する店を始める。

GALLERY KOYANAGI

【展覧会カタログ】

『UNSOLD UNSOLD』

全 36 頁／並製／縦 21cm 横 15.5cm

発行：ギャラリー小柳

部数：限定 300 部

価格：1,980 円（税込）

2014 年に発行した展覧会カタログ『UNSOLD』に、杉本博司の新テキストを加え『UNSOLD UNSOLD』として再版いたします。3 人のアーティストによるテキストと、2013 年の蚤の市でのそれぞれの出店の写真、隠し撮りされたドキュメンタリーショットを収録。

【展覧会概要】

展覧会名：UNSOLD UNSOLD | 杉本博司、ソフィ・カル、青柳龍太

会期：2024 年 11 月 21 日（木）－12 月 14 日（土）

[オープニング・レセプション：11 月 21 日（木）17:00－19:00]

***展覧会初日の 11 月 21 日（木）のみ、開廊時間が 17 時からとなります。**

開廊時間：12:00－19:00

休廊日：日／月／祝祭日

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：

東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分

お問い合わせ：ギャラリー小柳

Tel: 03-3561-1896

Mail: mail@gallerykoyanagi.com

URL: <http://www.gallerykoyanagi.com>

杉本博司

1948年東京生まれ。1970年に渡米、1974年よりニューヨーク在住。活動分野は写真、建築、造園、彫刻、執筆、古美術蒐集、舞台芸術、書、作陶、料理と多岐にわたり、世界のアートシーンにおいて地位を確立してきた。杉本のアートは歴史と存在の一過性をテーマとし、そこには経験主義と形而上学の知見をもって西洋と東洋との狭間に観念の橋渡しをしようとする意図があり、時間の性質、人間の知覚、意識の起源、といったテーマを探求している。作品は、メトロポリタン美術館（NY）やポンピドゥセンター（パリ）など世界有数の美術館に収蔵。代表作に『海景』、『劇場』、『建築』シリーズなど。

2008年に建築設計事務所「新素材研究所」を設立、MOA美術館改装（2017）、清春芸術村ゲストハウス「和心」（2019）などを手掛ける。2009年に公益財団法人小田原文化財団を設立。2017年10月には構想から20年の歳月をかけ建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」をオープン。伝統芸能に対する造詣も深く、演出を手掛けた『杉本文楽 曾根崎心中』公演は海外でも高い評価を受ける。2019年秋には演出を手掛けた『At the Hawk's Well（鷹の井戸）』をパリ・オペラ座にて上演。主な著書に『苔のむすまで』、『現像』、『アートの起源』、『空間感』、『趣味と芸術―謎の割烹味占郷』、『江之浦奇譚』、最新刊に『杉本博司自伝 影老日記』。1988年毎日芸術賞、2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）受賞。2010年秋の紫綬褒章受章。2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ受勲。2017年文化功労者。2023年日本芸術院会員に選出。

ソフィ・カル

1953年、パリ生まれ。10代の終わりから7年もの間放浪生活を送り、26歳でパリに戻る。その頃より制作を始め、1980年から展覧会へ出品。以後、ロンドンのテート・ギャラリー（1998年）やパリのポンピドゥーセンター（2003年）のほか、各国の主要美術館にて個展を開催。第52回ヴェネツィアビエンナーレ（2007年）フランス館代表のアーティストに選出された。近年では、パリ狩猟自然博物館（2017年）、マルセイユの5博物館（2019年）、パリのピカソ美術館（2023年）の各館で個展を開催し大きな話題となった。日本では、原美術館にて開催された「限局性激痛」展（1999年）や豊田市美術館（2003年）での個展開催のほか、「最後のとき／最初のとき」展が原美術館、豊田市美術館、長崎県美術館に巡回（2013-2015年）。また、2019年には渋谷スクランブル交差点の街頭ビジョンにて映像作品《海を見る》（2011年）が上映された。日本語に翻訳された著書に『本当の話』（平凡社、1999年）がある。

青柳龍太

1976年大阪生まれ、京都在住。現代美術家。多摩美術大学卒業後、2005年より主にファウンドオブジェを用いたインスタレーション作品の発表を続ける。2010年から数年間、東京・神楽坂の裏路地で骨董商を営んでいた経験があり、骨董や古美術に造詣が深い。2014年、ギャラリー小柳にて杉本博司、ソフィ・カルとともに「UNSOLD」展を開催。2017年、東京都内にある個人宅の防空壕にて個展「2015」「2016」を開催し、完全予約制で9日間みの展覧会にもかかわらず多方面から注目を集めた。2019年、ギャラリー小柳にて個展「sign」。2023年、中国杭州の天目里美術館で開催された「古道具坂田 僕たちの選択」展のキュレーターを務める。2018年3月発行の雑誌『美術手帖』よりエッセイ「我、発見せり。」を連載中。